

証拠金取引における「証拠金」とは、取引の元手となる担保の事です。担保ですからもいに越したことはないのですが、取引額より少ない元手で投資できるのは証拠金取引の特徴の一つです。この仕組みをレバレッジといいます。東京金融取引所は差し入れる最低限の額(証拠金基準額)を決めています。基準額は指数の変動実績などによって毎週変わります。日経平均型の取引の場合、現在の証拠金基準額は6万円台です。証拠金取引は株価指数の100倍が取引単位になるので、日経平均型1枚の元本は約170万円。つまり、6万円の資金で170万円の取引をすることも可能なのです。倍率は実に、約27倍です。もちろん、実際にはもう少し多めの証拠金を差し入れ、安定した取引を行う必要があります。

株価指数証拠金取引のイロハ ② 少ない元手でも投資可能

ります。何倍のレバレッジをかけるのかは重要な選択です。取引している指数の想定元本と、証拠金を含め口座に預ける金額との比率をレバレッジ倍率といい、投資家自分で決めることができます。例えば、口座に10万円を預け、100万円の取引をした場合、レバレッジ倍率は10倍です。口座に預けた資金は証



拠金を含めた全額を取引所が保全しており、安心です。レバレッジ倍率が10倍なら、株価指数の変動で生じる利益や損失も10倍になります。同じ株価指数取引でも買付け代金全額の差し入れが必要な上場投資信託(ETF)などとは異なり、少額資金で同じ効果を得られるわけです。余った資金を他の金融商品に振り向ければ、分散投資効果を高めやすくなります。また、レバレッジを掛けて売ってから取引に入り、保有する他の資産のヘッジとして使うこともできます。ただ、手持ち資金を全額つぎ込むなど、レバレッジの掛け過ぎは危険です。自分のリスク許容量を超えてしまわないよう、適切な使い方を心がけましょう。(金融ストラテジスト 岡崎良介)